



開通式でテープカットをする関係者ら

山の手幹線・深谷橋が開通

勝間田川に架かる深谷橋の工事が完了し、市の東西を結ぶ道路が開通しました。昭和46年の工事から40年以上が経過。開通により、周辺道路の渋滞緩和や東名高速道路相良牧之原インターチェンジ方面からの榛原総合病院、牧之原警察署などへのアクセス向上など利便性が良くなり、地域間の融合が期待されます。

問い合わせ 建設課 大石 ☎ (53) 2628

都市計画道路 山の手幹線	
計画延長	約3,300メートル
供用区間	約3,050メートル (509メートル)
事業期間	昭和44年4月～平成24年3月 (平成11年4月～平成24年3月)
事業費	約30億8千万円(約14億5千万円) *カッコ内は今回の事業区間



深谷橋の工事などの完了に伴い、全延長約3,300メートルのうち約3,050メートルが完成し、「榛南・南遠広域都市計画道路 山の手幹線」が3月4日、開通しました。山の手幹線は良好な市街地形成や交通の円滑化などを目的として、昭和42年度に都市計画の決定がなされ、46年度から工事が開始されました。国道150号北側に位置し、榛原地域の東西を走るこの道路は、旧榛原町と旧相良町を結ぶ地域融合幹線道路の機能を持っています。一部の区間はすでに供用開

始されていましたが、今回の工事で深谷橋の架け替えを含む、延長509メートルの区間を約12年の歳月(測量や用地交渉などを含む)をかけて整備しました。12年間にわたる事業の間には、「白百合遺跡」の発掘調査や、県指定の絶滅危惧種である「シロウオ」の営巣環境に配慮しての深谷橋の工事も行われました。山の手幹線の開通により、周辺道路の渋滞緩和や市東部へのアクセスが飛躍的に向上し、往来がスムーズになりました。

深谷橋完成までの道のり

深谷橋の工事は、大きく3つの工程に分けて行われました。川の上流から下流に向かって、右側の岸を右岸、左側を左岸と呼びます。工事は右岸の橋台工事から始まり、続いて左岸橋台と橋脚工事が行われ、最後に上部工事が行われました。



1 右岸橋台工事 橋台は橋の両端に設置される橋桁を乗せる台。橋は大きく分けて、上部構造と下部構造から出来ています。

2 左岸橋台・橋脚工事 下部構造は上部構造を支え、荷重を地盤に伝達する役目を持ちます。橋の中間に設置されるものを橋脚と呼びます。



3 上部工事 上部構造は、橋台と橋脚などをつなぐ橋桁のこと。車や人が渡る道路はこの上の部分です。上部工事での架設工事では、400トン吊りのクレーンを使用しました。



さまざまな課題を乗り越えて

白百合遺跡発掘調査

約2千年前の弥生時代後期から約800年前の中世までの遺跡であり、規模は道路工事に関する部分で約2400平方メートル。埋蔵文化財の包蔵地に指定されており、試掘により土器を発見。平成20年5月から21年3月までの発掘調査の結果、県内では珍しい、海岸線に近い場所である集落跡や土器館などが多数出土されました。



【写真上】出土した、胎児や幼児を埋葬するために使われていた土器棺
【写真左】遺跡の発掘調査の様子

シロウオ生態環境に配慮

シロウオは静岡県版レッドデータブックの絶滅危惧種に指定されており、勝間田川での遡上が確認されていました。深谷橋改築工事に伴う影響を確認するため、専門家の指導の下、平成19年2月から調査を開始。事前調査の結果、産卵時期には工事を避けるなど、営巣環境に配慮しながら工事を実施しました。工事完了後も追跡調査を行っています。



【写真左】シロウオの遡上確認調査の様子
【写真下】シロウオ(スズキ目ハゼ科)。透明な体を持ち、体長は5cmほど

市民インタビュー

相良地域からの利便性が向上



萩間地区長
藤野 昌孝さん

深谷橋の開通によって、私たちの萩間地区からも榛原総合病院や牧之原警察署へのアクセスが良くなり、日常生活での利便性が高まりました。病院を利用する高齢者も多いので、大変喜んでいます。萩間地区だけでなく雪山や大沢などの地域からも細江方面が近くなったので、そういった意味で旧2町の一体感の醸成にもつながるのではないかと思います。

渋滞が解消され大変ありがたい



橋向町内会長
柴本 榮さん

地元町内会としては、朝、晩の戸塚橋からローソン勝保店までの渋滞が解消されるので、大変ありがたいです。榛原総合病院にも、今までの半分の時間でいけるようになりました。反面、通行車両のスピードが気掛かりです。近隣の町内会の皆さんと協力して交差点などに立ち、通学する子どもや高齢者の安全に気配りをしたいと思います。